



はなてんびん

Vol.7 2009年1月

発行責任者 地域連携室



「新年のメッセージ」

院長 牧 洋

新年あけましておめでとうございます。年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年一年間は、皆様のご支援のおかげをもちまして、当初の病床利用率低下で先行き不安でしたが、年末までに目標の充床率を達成できました。

本年もこのまま高い充床率を維持しながら、さらに質的な充実を目指して皆様と一緒に頑張りたいと考えています。また、職員のやる気、仕事満足度を高める活動として、QCサークル活動を病院全体として取り組んでいきたいと考えています。さらに、地域のイベントに昨年は初めて参加したわけですが、今年もこのイベントだけでなく、積極的に地域に出て行き、地域で認められる病院になれることを目指していきたいと思っております。そのための組織として、顧客満足度委員会（CS委員会）を立ち上げてその中に企画会議をもうける計画であります。

顧みれば、昨年はネズミ年の干支のせいか、

世の中が、ちょろちょろと落ち着かない一年でした。ちょろちょろというのは、当たっていないかも知れません。むしろ激変したと言ったのでしょうか。最終的に、世紀の大金融・経済不安となり、景気の落ち込み、失業者の大量発生など暗い年末になりました。その状況は、年が明けても当分続くとの予想であります。

悪い予想がある中で、先に述べたような課題にしっかり取り組み、結果を出していくことは、いかにも大変で努力を要することであると思っております。今こそ、その決意をし、思いを一つにして、地道な日々の取り組みを始めるときであると思っております。やりたいことを並べるだけならたやすいことですが、実行に移すには、しっかりと準備すること、皆様のご協力を得ることが必須であります。今年一年も、昨年同様のいや昨年以上に皆様のご支援をお願いします。



乗り切ろう！ 花粉の季節

耳鼻咽喉科 井上 高世



2009年のスギ花粉の飛散量は、西～東日本において『08年と同じか多め』と予想されています。日本では5人に1人が花粉症と診断されていますが、自覚症状から「花粉症だなー」と思っている人を合わせると、なんと国民の4割が花粉症であるといわれています。また小さな子供には花粉症は無いと思われていたのに、近年2歳で花粉症と診断されたケースも報告されていて、もはや症状の無い人も他人事ではありません。今は花粉症ではない方も、スギ花粉に感作しないように一緒に予防しましょう。



● 自分でできる花粉症対策

— 付けない・吸わない・はたく・洗う —

「ツルツルした素材の服を着る。玄関に入る前にはたく。大量飛散日には外出しない」などテレビでも啓蒙されています。マスクやゴーグルなどグッズもたくさん市販されているのですが、意外に皆さん盲点になっているのが髪！

是非とも帽子を着用してください。

● 健康管理にも気をつけて

同じ量の花粉を吸い込んだ場合でも、ストレス、睡眠不足、喫煙、飲みすぎがあると症状が更に強く出ます。体調管理にも気を配ってください。

● 家の中の環境にも

洗濯物は家の中に干す、飛散時に部屋の換気をしない、空気清浄機・布団乾燥機など活用。

● 民間療法はほとんどに

症状の軽い方には効くものもありますが、必ず「花粉を付けない・吸わない・はたく・洗う」を実践して下さい。

● お薬は病院で

毎年症状がきつい方は1月中旬から抗アレルギー剤を内服して薬の血中濃度を上げておくとかなり症状を抑えられます。眠気の少ない薬もありますので、是非当院にご相談ください。妊婦さんに使える薬もあります。

● その他の治療法は

高度の鼻詰まりには手術療法があります。

滋賀医科大学耳鼻咽喉科などと連携して行いますが、シーズン前に施行するのがお勧めです。

また減感作療法といって「花粉に対し防御する免疫を獲得する」いわゆる体質を変える方法があります。滋賀医科大学で施行しています。頻回に注射に通わなければならないのですが、2年以上続けた患者さんの6割の方に効果が持続しています。

一方プロゴルファーなどは年に1回の「全身性のステロイド薬の筋肉注射」によって花粉症を乗り切るようですが、通常は副作用の問題から行いません。当院でも行っていません。「全

身性のステロイド薬の筋肉注射」を他院で施行してもらう方は、副作用についてよく主治医と相談の上で受けるべきと思います。

花粉症対策をここでは十分述べきれませんが、テレビで目にする機会はたくさんあると思います。スギ花粉症を軽く済ませれば、続いて来るヒノキ、イネ科、ブタクサなどのアレルギーも乗り切ることができるでしょう。是非とも「予防」に関心を持ってください。



部署紹介 リハビリテーション科

みなさんこんにちは。

私達リハビリテーション科は、理学療法士6名・言語聴覚士2名・柔道整復師5名・マッサージ師2名・助手3名で毎日の業務を行っています。

さて突然ですが、「リハビリ・・・」という言葉が日常的に耳にするようになったのはここ最近のような気がします。私達が病院・施設・訪問リハビリ等でいったい何をしているのか皆さんはご存知でしょうか？ 家族の誰かが脳梗塞や脳出血等で倒れ、体の半分が言う事を利かなくなった時や、うまく話ができなくなった時、又骨折による手術で一時的に動けなくなった時に私達は、日常生活を病気や怪我をする前の状態に出来るだけ近づけようとする患者様のお手伝いをしています。風邪などは、お薬を飲んで十分休養をとる事で治ってしまうでしょう。しかし、リハビリが必要な病気の回復には時間も掛かりますし、時間がかかる分気持ちも滅入ってしまいます。そこで、家族や周囲の人たちの支えや助けが必要となってきます。ある意味リハビリの先生は皆さんかも！？

ホロニクスグループ 学術集会・看護研究発表会



12月14日(日) 「大阪医専」で行われました。

学術集会では、グループ病院より40題が参加し、本院ではリハビリテーション科より「食事介助の勉強会を通じた嚥下障害に対するチームアプローチの確立」という演題で言語聴覚士がポスター発表を行いました。

看護部からは亡くなられた患者さまへの最後の大切なケアである、エンゼルケアの見直しを検討しマニュアル作成を行い、今後のケアに役立てたいと発表しました。

公開医学講座



12月15日に山田医師による「高血圧」についての講座が開催されました。

「ゴムホースの例えで血圧の仕組みが良くわかりました」「いつも運動、食事に注意しているつもりでも忘れていたことを確認できた」などの感想をお聞きすることができました。

クリスマス会

12月18日に看護部が中心となり5階のリハビリ室で、クリスマス会が行われました。



さくらんぼ保育園の子供たちの歌やボランティアの皆様により、讃美歌や琴の演奏が披露されました。

診療科目：内科・外科・整形外科・泌尿器科・皮膚科・

耳鼻咽喉科・リハビリテーション科

人工透析センター

診療時間：午前診察 9：00～11：30

午後診察 13：30～16：00

診察日：月～金 午前診察・午後診察

土 午前診察

※ 日曜日・祝日は休診



〒529-1445

東近江市五個荘清水鼻町95番地

TEL 0748-48-5555

FAX 0748-48-5556

E-mail info@kanzakihp.com

URL http://kanzakihp.com

<地域連携室>

TEL 0748-48-5558

FAX 0748-48-5722